

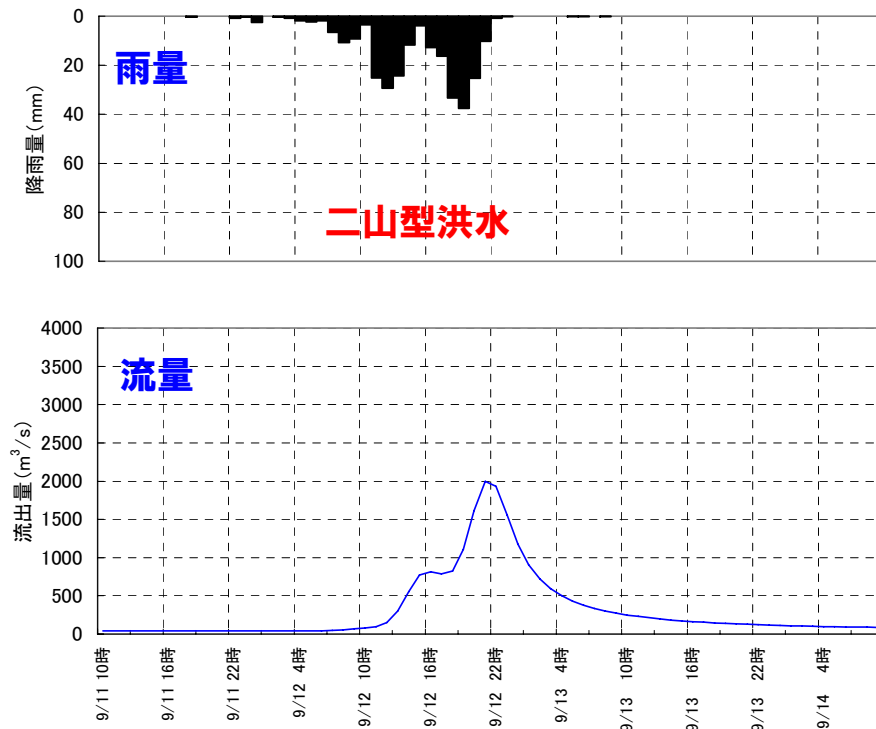
第2回名取川水系河川整備学識者懇談会 議事概要について

平成20年10月14日
国土交通省 東北地方整備局

1. 昭和19年9月洪水と昭和25年8月洪水の降雨波形比較 名取橋地点

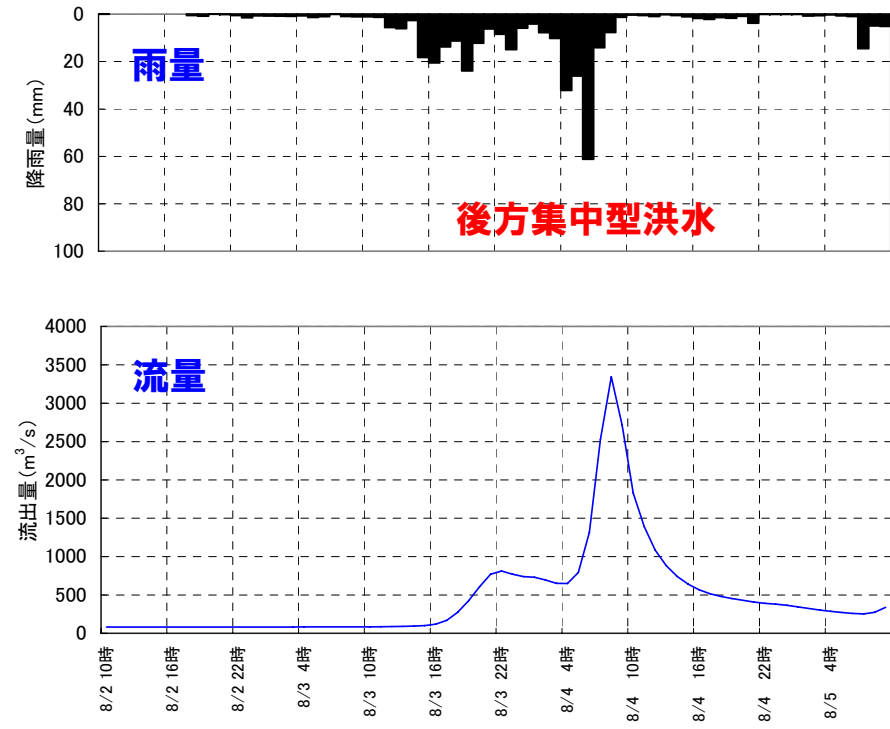
- 2洪水ともに、基準点間での降雨波形の大きな違いはない（概ね同一の降雨波形）。
- 昭和19年9月洪水は、12日12時頃と12日19時頃に大きな降雨となる2山型の洪水と評価できる。
- 昭和25年8月洪水は、4日6時～7時頃に降雨量のピークが発生した、後方集中型の洪水と評価できる。

◆ 昭和19年9月洪水



雨量	273mm/2日
最大降雨強度	37.6mm/hr
ピーク流出量	1,999m³/s

◆ 昭和25年8月洪水

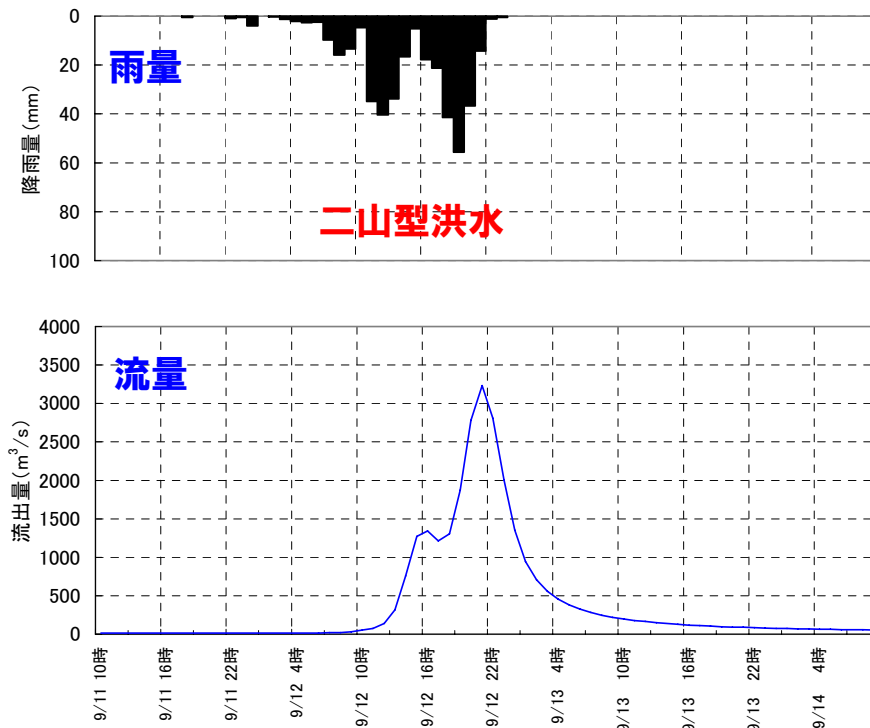


雨量	362mm/2日
最大降雨強度	61.2mm/hr
ピーク流出量	3,344m³/s

1. 昭和19年9月洪水と昭和25年8月洪水の降雨波形比較 広瀬橋地点

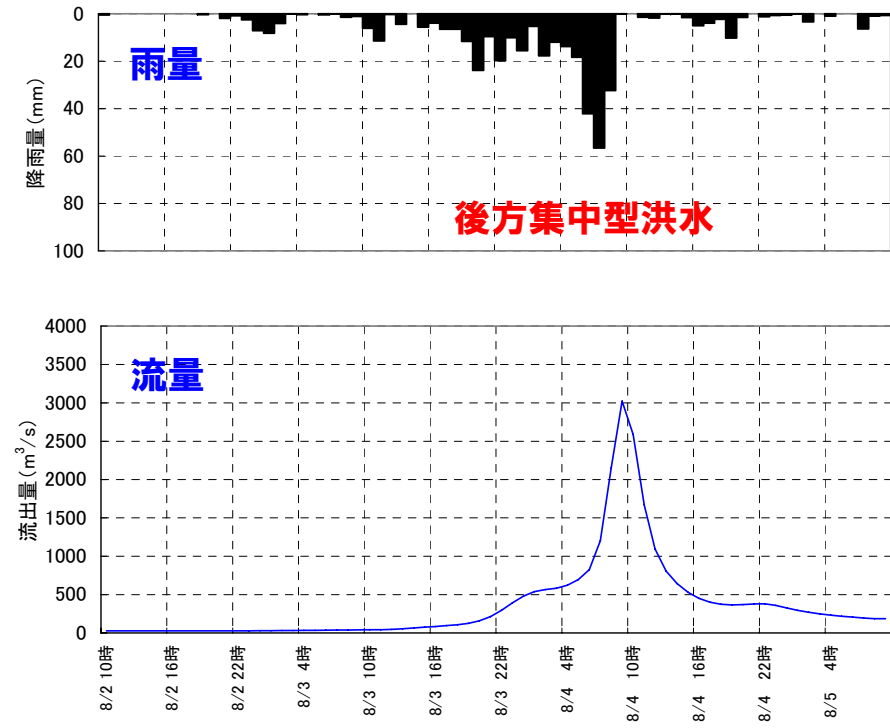
- 2洪水ともに、基準点間での降雨波形の大きな違いはない（概ね同一の降雨波形）。
- 昭和19年9月洪水は、12日12時頃と12日19時頃に大きな降雨となる2山型の洪水と評価できる。
- 昭和25年8月洪水は、4日6時～7時頃に降雨量のピークが発生した、後方集中型の洪水と評価できる。

◆昭和19年9月洪水



雨量	379mm/2日
最大降雨強度	55.6mm/h r
ピーク流出量	3,233m ³ /s

◆昭和25年8月洪水

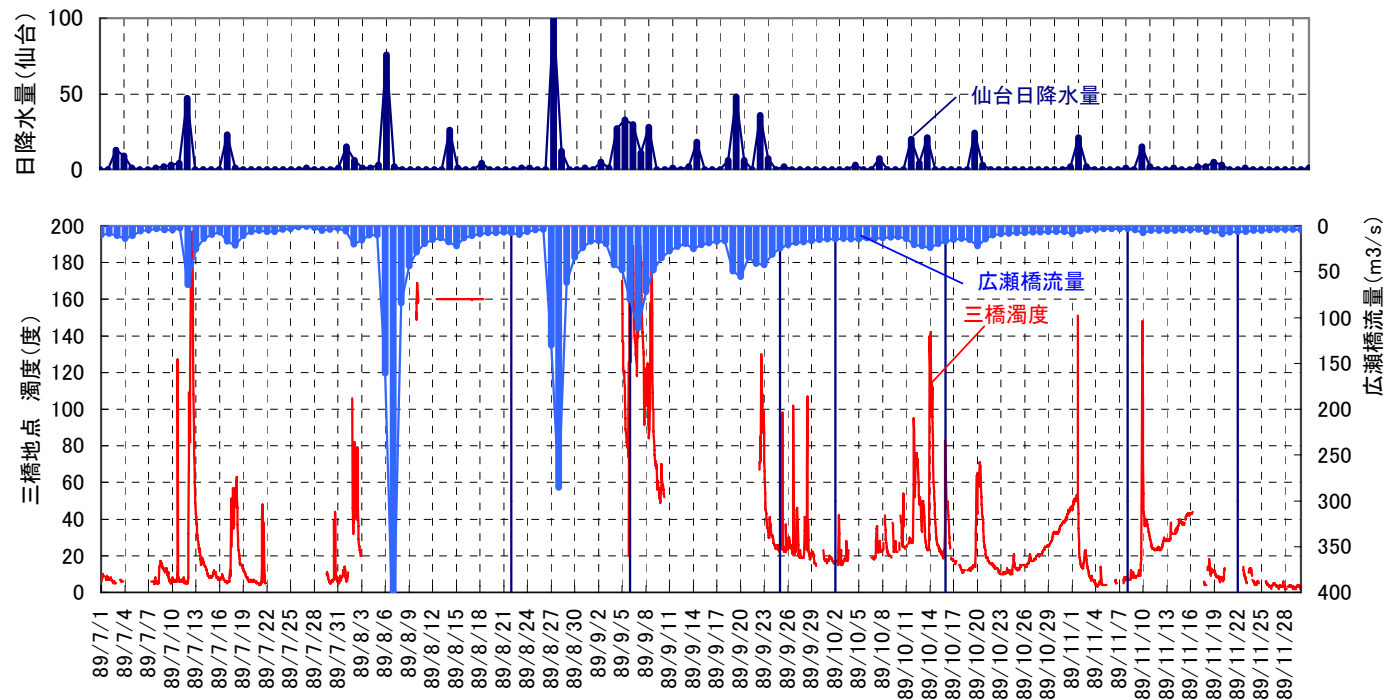


雨量	377mm/2日
最大降雨強度	56.6mm/h r
ピーク流出量	3,023m ³ /s

広瀬川における濁水長期化の状況について

◆ 広瀬川においては、過去に濁水の長期化が問題視されたことがある。近年の水質観測結果（濁度）からは明確な傾向は読み取れないが、引き続き状況を監視していく必要がある

● 1989年の三橋地点(広瀬川)での濁水状況

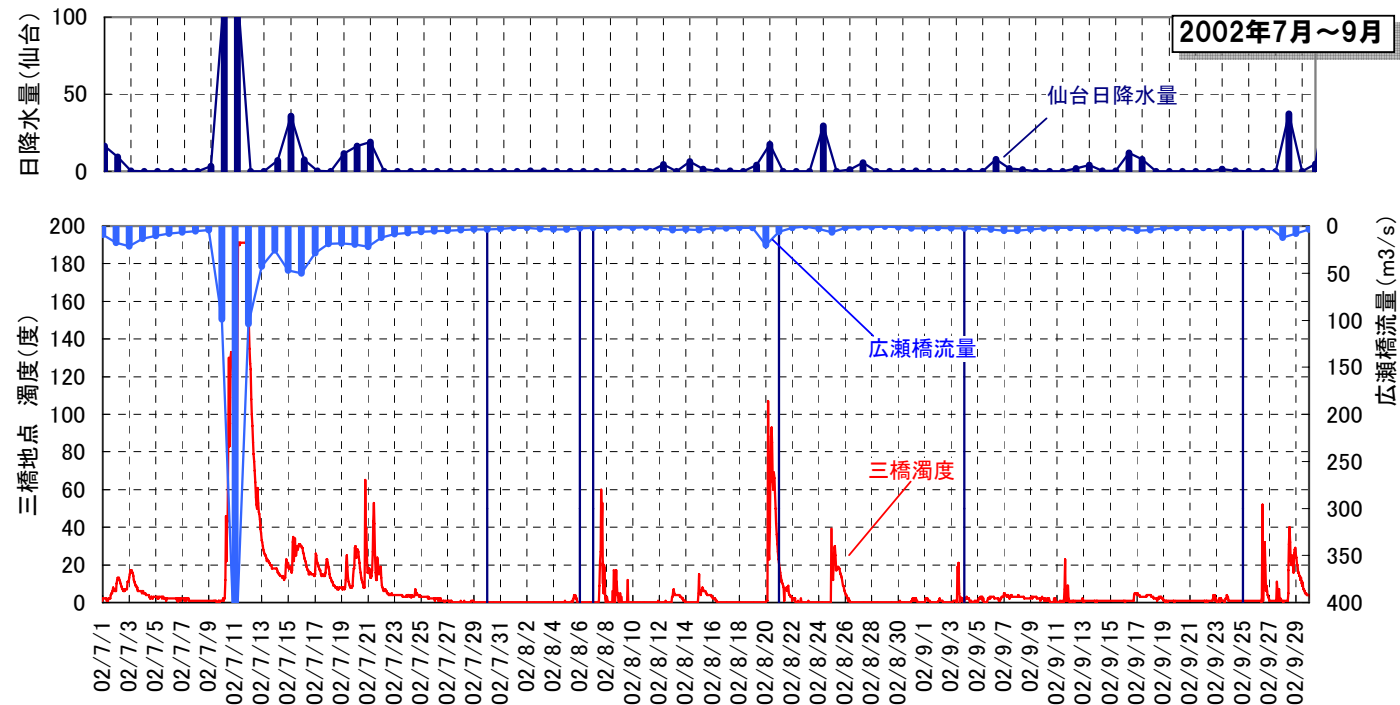


・ 広瀬川では、1989年8月の出水後、約3ヶ月間、濁水が継続した

広瀬川における濁水長期化の状況について

- ◆ 広瀬川においては、過去に濁水の長期化が問題視されたことがある。近年の水質観測結果（濁度）からは明確な傾向は読み取れないが、引き続き状況を監視していく必要がある

● 近年出水での三橋地点（広瀬川）での濁水状況



- ・ 近年も降雨継続時には10日間程度、濁度が10度以上継続することがあるが、降り終えてから2～3日で元に戻る事がほとんどである

広瀬川における濁水長期化の状況について

平成元年8月の出水では、大倉ダムの濁度が回復するまで5ヶ月程度を要した。平成14年7月洪水時には1ヶ月程度で回復している。

流域の保全のため、関係機関と連携した取り組みが必要。

■大倉ダムでの植樹（平成9年～平成13年）

